

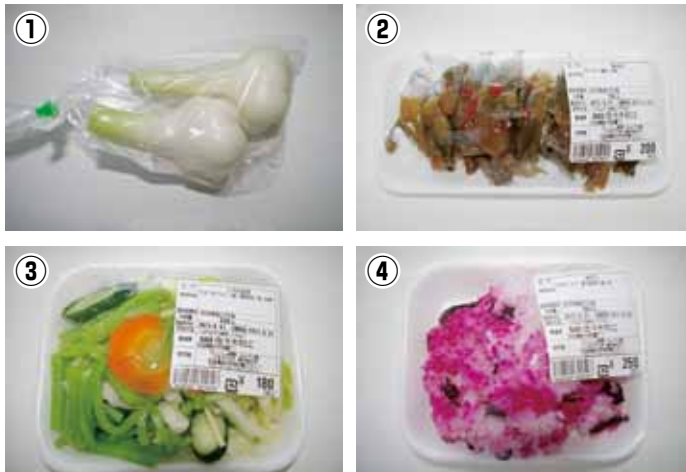
あなたも直売 やりませんか？



能代市轟

はつえ
佐々木 初江さん (70)

みょうが館の設立当初から直売活動を行い、現在数多くの農作物を栽培を行い、1年を通し出荷している佐々木初江さん。「直売仲間やお客さんとふれあうのが楽しくて、毎日直売所に通っています。直売活動を行うようになってから、健康になりましたね」と佐々木さん。これからもお客さんの笑顔のために、たくさんの人に支えられながら、直売活動を行っていきたいと意気込みを語ってくれました。



■商品紹介 (季節等により価格は変動します。)

- ①にんにく 150円/2個 ②醤油漬 200円/150g
③ミズの塩漬 180円/200g ④赤ずし 250円/250g

■店舗紹介 (みょうが館)

JAあきた白神管内の農家による、自家生産物等の直売施設です。真心をこめて作った新鮮で安心・安全な農産物をお届けします。



お問い合わせ：0185-58-3005

あなたもチャレンジ！

家庭菜園



病害虫の防除と農薬の上手な使い方



病害虫の発生を抑え、健全な野菜を育てるために必要な事項は、(1)病害虫の発生源、感染源を少なくする(2)これらの生育場所となる周辺雑草を退治し、野菜の残りがすを丁寧に始末する。(3)病害虫を受け付けにくい健康な体の野菜を作る(4)適期まき、適期植で株間を十分に採光、通風を良くし、肥切れさせない。(3)病害虫の感染、飛来を、資材や混・間作、輪栽で回避する(4)防虫ネットやべた掛け資材被覆、反射フィルムの利用、麦や陸稻を間作して障壁を作る。対抗植物との輪栽(ネマトーダにマリーゴールド、エン麦、ハブ草)、コンパニオンプランツ、共栄植物との近接栽培(トマト、ニラ、ウリ類とネギ)などによる対応。(4)被害の早期発見に努め、機を逸しないので有効な農薬を上手に散布する、など

農薬を有効に利用するに当たって大切なことは、病害虫は畑全体に一斉に出るものではなく、初めは部分的に、特定の株や部位に出て、それが何日かすると急に広がっていくので、初期発生を発見に努め、この段階でいち早く局所を重点的に薬剤散布することが肝心です。そうすることにによって薬剤の使用回数、量を大幅に節減することが可能です。

水剤、乳剤は必要な水量に薬剤を入れ、展着剤を加え、よく攪拌(かくはん)して用います。必要量は野菜の種類、生育段階により大きく異なりますが、生育盛りのキュウリ、トマトでは1株当たり100〜200ml、キャベツ、ハクサイでは約30〜50mlぐらいと考えてよいでしょう。

